

## 不登校の未然防止と校内体制の充実について

### 不登校生徒の状況

対象生徒は、中学校第 1 学年の 10 月末から欠席や早退が増えた。第 2 学年の 4 月当初は教室で授業を受けていたが、欠席が増え始めたため、5 月中旬からは、別室で指導をしている。当該生徒が少しでも登校できるよう、SC や校内別室指導支援員と連携を図り、支援会議を通じて支援方法を検討した。不登校加配教員として、効果的な支援方法の検討を組織的に行えるような体制を整えている。

### 具体的な取組

#### ○不登校に関する現状分析

不登校の全体的な傾向としては、集団になじめないことによる体調不良が多い。新たな不登校を早期発見するため、生活指導部と連携を図り、月 1 回の生活アンケートを実施し結果分析による生徒理解に努めている。

#### ○支援会議の企画、運営

週 1 回、支援会議を実施している。SC、養護教諭、特別支援教室、各学年から生徒の 1 週間ごとの様子について情報共有をし、不登校の早期発見・早期対応を中心に個に応じた支援方法を検討している。検討された支援体制は、全教職員で共通理解を図っている。

相談室



#### ○教育支援センター等との連携

本校 SC のほか、都巡回心理士 (月 1 回)、市巡回心理士 (学期 1 回) による行動観察等の報告を基に支援方法を検討している。また、SSW と連携し、不登校生徒及び家庭への支援や、教育支援センターに通う生徒の情報を定期的に共有している。

#### ○校内研修の企画

校内別室指導支援員と協力し、不登校生徒理解と対応に関する校内研修を企画、運営している。不登校支援は、「学校に登校する」ことが目標ではなく、生徒の社会的な自立を目指すという主旨での研修会とした。

### 成果

不登校加配教員が中心となり、支援会議やアンケートを活用しながら、悩みを抱えている生徒を注意深く観察し、不登校の要因を早期発見することができた。全職員で、早期対応や個別最適な支援方法を常に検討することで、不登校の未然防止につながった。

### 課題

別室指導を利用した生徒が、通常の教室に戻ることがなかなかできずにいる。より効果的な支援方法の検討が必要である。

## 不登校対応加配教員による校内体制の強化について

### 不登校生徒の状況

対象生徒は、中学校第1学年の1学期までは登校し、教室で授業を受けていたが、夏休みが明け、2学期から不登校状態となった。現在は、週1、2回、校内別室を利用したり、毎週水曜日にSCとの面談を行ったりしながら、定期的に登校している。

### 具体的な取組

#### ○組織力の向上

不登校生徒が安心して登校し、学習に取り組むことができるよう、校内別室の環境整備を行った。今年度から、不登校生徒の実態及び多様な学びを実現させるために、個別学習室において、オンライン授業を開始した。また、アプリケーションを活用し、リアルタイムで教室の学習活動に参加する取組を行った。教員のデジタル活用能力の向上にもつながっている。



#### ○校内体制の強化

校内支援委員会を月2回開催している。その中で、不登校対応加配教員から不登校生徒への具体的な取組の紹介や成果、今後の見通し等を情報提供し、その内容について検討を深めている。また、事前に特別支援教育コーディネーターと不登校対応加配教員が事前に打ち合わせを行い（必要に応じて副校長、主幹教諭も同席）、校内支援委員会の取組の充実や内容の焦点化を図っている。

#### ○実践の成果等についての普及・啓発

不登校対応加配教員の報告会において、今年度の実践の成果等について報告を行った。また、本校の取組について、ホームページに掲載し、普及・啓発を図っていく。

#### ○個々の不登校生徒への支援

不登校対応加配教員が、学級担任をはじめ、SC、不登校生徒の関心が高い教科の担当教員、用務員等の職員とも連携し、多様な支援を行い、不登校生徒への対応の充実を図っている。



### 成果

生徒や保護者の実態に合わせて、対応の幅を広げることができている。また、不登校生徒の対応に多くの教職員が関わることで、生徒の登校意欲につながるとともに、教員も対応力が向上している。

### 課題

生徒の居場所を充実できるようにして、学習意欲の有無にかかわらず、登校につなげることができる体制づくりが課題である。